

藤里町版働き方推進プロジェクト

子育て女性を対象に

2019.12.5 北刊

ロカベン 推進協 ワークシエアで両立を

藤里町の藤里版ローカルベンチャー推進協議会（会長・佐々木和繁副町長）は、子育て中の女性を対象にワークシエア事業「藤里版しごとづくり・働き方推進プロジェクト」をスタートさせた。地域の事業者から請け負った業務にチーム作業を基本に励み、無理のない育児と仕事の両立を目指す。現在11人が登録している。女性の多様な働き方を支援する非営利株式会社・ポラリス（東京都調布市、大槻昌美代表取締役）の協力も得て、ノウハウを学びながら女性が安心して暮らし、働けるまちづくりにつなげたい考え。

地方創生推進交付金を から推進する「ローカル」一環。同事業では起業に活用して町が平成29年度「ベンチャー推進事業」の「意欲のある人材の育成や

ビジネスモデルの構築などに取り組んできたが、今年度新たに育児中の女性を対象に「藤里版しごとづくり・働き方推進プロジェクト」に着手した。藤里版ローカルベンチャー推進協議会による

と、同協議会が仲介役となり、地域の事業者から書類整理や文書作成といった業務を発掘し、子育て中の女性たちがチームで請け負う。

初年度は、育児中の女性たちにこれまでとは違う働き方を経験してもらったり、事業者側にも仕事の一部を切り出すことの意義や効果を検証してもらおう「トライアル業務」期間に位置付けているため、発注する事業者側の経費は発生しない。請け負った女性たちの報酬は、国の交付金から支払われる。

「ポラリス」と協働で

子育て中の女性の場合、多くは町内や自宅に近い場所での仕事を望む傾向にあるという。しかし、町の現状では仕事の選択肢が少なく、希望とは違う働き方をしたり、仕事と子育てとのバランスに悩んだりと、働きにくさを感じているのも実情。育児中の柔軟な働き方を少しでも実現できればというのがプロジェクトの最大の狙いだ。

現在、11人が登録しており、これまで町図書室の蔵書点検や「ブナの森マラソン」の運営スタッフ、幼児用自転車レース大会の事務局などに従事。時間や場所に制限されない働き方を体験し、

どのような仕組みであれば、働きやすいか女性・母親目線で考えてきた。今どころ業務の依頼は町役場がメインだが、地域の民間事業所などにも広く協力を呼び掛け、仕事の発掘に努める方針。また、女性の多様な働き方について豊富なノウハウがある「ポラリス」と協働することで、同社の業務請け負いサービスの手法を学びながら、最終的には子どもの成長や自身のライフステージに合わせて、働き方を選べる仕組みづくりを目指す。

同協議会は「地方も都会も子育て中の女性が抱える課題は共通していることが分かった。単なるお小遣い稼ぎではなく、女性たちが働きやすく、つながりやすい仕組みづくりが必要」と話し、今後さらに業務の実践を重ねながら、藤里らしい働き方の仕組みづくりを構築していきたいとしている。